

第3号議案

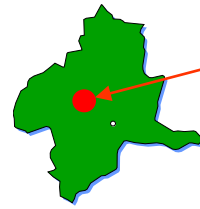
社会資本整備総合交付金事業(街路事業)
 (都)3. 4. 5原町駅南口線外1線 はらまちえきみなみぐちせんほか1せん 吾妻郡東吾妻町 あがつまぐんひがしがつままち

着工年度
 評価理由

平成9年度
 再評価後5年

1. 事業の目的

- ・吾妻川右岸側川戸地区から東吾妻町中心原町地区へのアクセスを容易とし住民の利便性を高める。
- ・吾妻地域の中核的医療施設である原町赤十字病院へのアクセス強化を図る。



事業位置
 東吾妻町



原町地区交差点部



事業位置

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	あがつまぐんひがしがつままちはらまち <small>あがつまぐんひがしがつままちはらまち</small> あがつまぐんひがしがつままちなかど 吾妻郡東吾妻町原町～吾妻郡東吾妻町川戸		
区分	今回	H20年 計画変更時	前回再評価時
全体事業費	3,657百万円	3,982百万円	3,900百万円
全体事業費増減の理由	橋梁形式見直し	用地補償費の増大	
事業期間	H9～H25	H9～H25	H9～H23
事業内容	道路延長 1,058m 幅員 16.0m	道路延長 1,058m 幅員 16.0m	道路延長 1,058m 幅員 16.0～20.0m

事業経緯

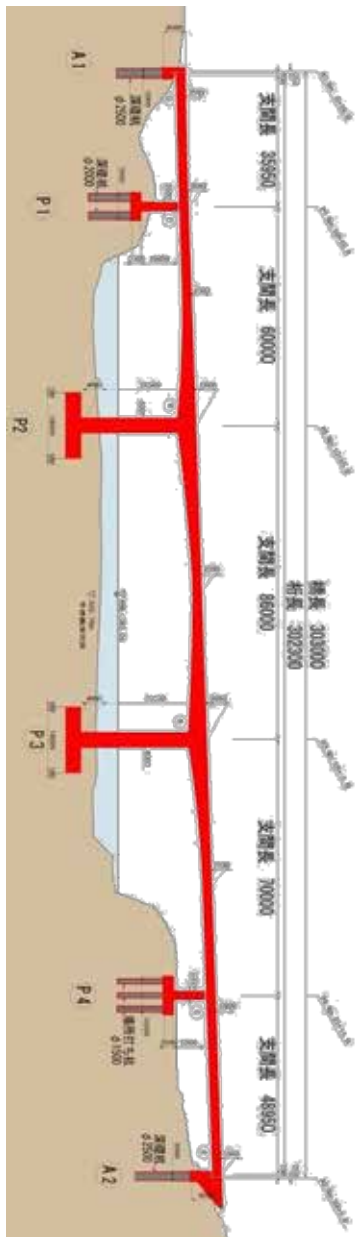
年度	主な経緯
H9	路線測量 道路詳細設計
H13	事業認可 用地買収着手
H20	事業変更認可
H22	都市計画変更 橋梁下部工着手

進捗状況

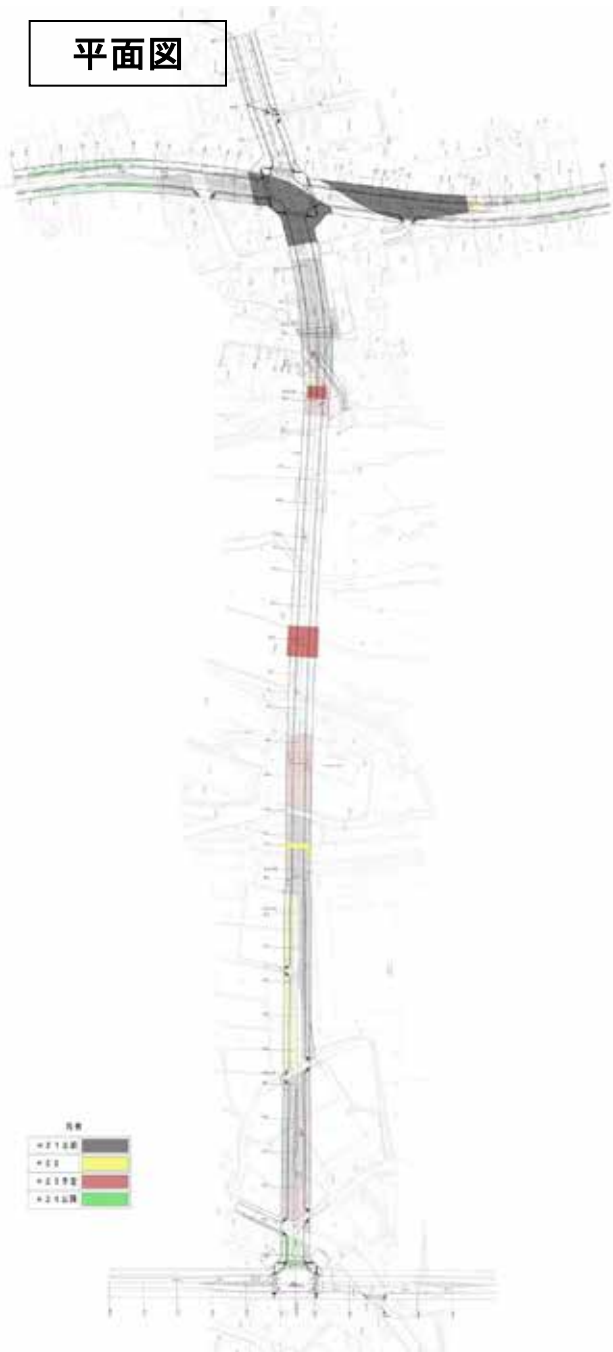
	全体計画	現在の進捗状況 (H22末進捗率)	前回評価時の進捗状況 (H17末進捗率)
事業費	3,657百万円	1,193百万円 (32.6%)	660百万円 (16.6%)
用地買収	9,784m ²	7,025m ² (71.8%)	2,725m ² (27.8%)
計画延長	1,058m	135m (12.8%)	0m (0.0%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

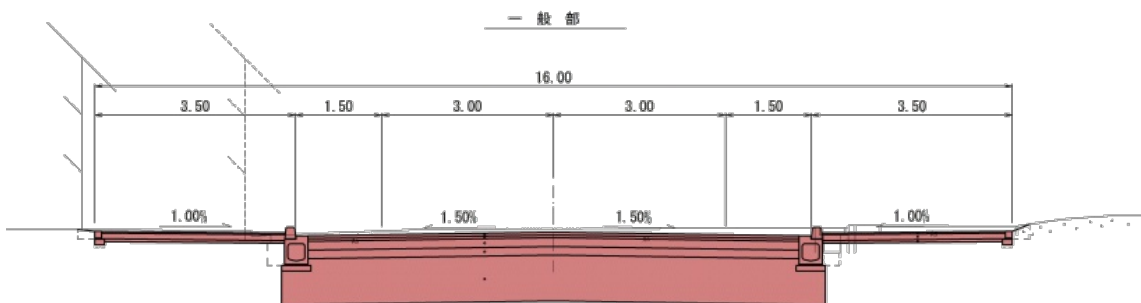
橋梁一般図



平面図



標準横断面図



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

・JR群馬原町駅から日赤病院へのアクセス町道を「福祉ふれあいロード」として整備が完了したが、本事業の歩道整備を加え一連性のある周辺整備が望まれている。また、対岸には高齢者を対象としたデイサービス施設もあり、橋梁ができることによる福祉ネットワークも期待されている。



広い歩道の整備



福祉ふれあいロード

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

・橋が整備されることで、吾妻川右岸側川戸地区から東吾妻町中心原町地区へのアクセスが容易となり住民の利便性が高まる。また工業地域とのアクセス性の向上により新たな企業誘致も期待できる。
 ・歩道を整備することにより、身体障害者や高齢化社会に対応した歩きやすい安全・安心な道が確保され、福祉のまちづくりの観点からも寄与できる。



原町地区
交差点
施工状況



川戸地区
A2橋台
施工状況

費用便益分析

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		街路事業における費用便益分析マニュアル		費用便益分析マニュアル(平成20年11月)			
基準年		平成15年		平成23年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	3,509,113	92.7%	3,700,000	97.4%		
	維持管理費	277,470	7.3%	100,000	2.6%		
費用合計(C)		3,786,583		3,800,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便	6,977,839	93.6%	4,568,000	115.4%		整備による走行時間短縮
	交通事故減少便	9,657	0.1%	110,000	2.8%		整備されない場合の交通事故による社会的損失
	走行経費減少便	464,966	6.3%	-719,000	-18.2%		走行時間に含まれない走行費用の低下
便益合計(B)		7,452,462		3,959,000			
費用対効果分析(B/C)		1.97		1.04			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化

- ・本事業の用地取得に関しては、中心商店街の建物移転が数多く発生する。移転対象の商店はいずれも地元住民が客層であり、地元に着した営業形態であることから、移転休業中の客離れを防ぐために、仮営業を行えるよう対策を実施するなど、地元からの要望が多く、合意形成に不測の日数を要した。
- ・平成22年度末には現道改修部分の用地取得面積が70%を超え、最低限必要となる現道取り付けが可能となったことから本線橋梁部分の事業に着手している。



駅前の家屋等が立ち並ぶ商店街が事業区域

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・吾妻川により分断された地域のアクセス性向上のために必要な橋梁であり、身体障害者や高齢化社会に対応した歩きやすい安全・安心な道を整備するために必要な事業である。
- ・平成22年に都市計画決定の変更を行い、橋梁形式や道路幅員を見直すことで、本事業に必要なコストの縮減に努め事業の早期完成を目指している。
- ・事業長期化の要因であった用地買収については、現在進捗率が70%を超え、長年懸案となっていた橋梁部分の用地についても平成24年度取得の見込みとなった。
- ・今後集中投資をおこない、早期に本線の通行可能とすることを目標に引き続き事業を進捗したい。